



ばんクリニック

BAN CLINIC



ばん先生と

“受動喫煙”

を考えよう。



みなさんは世界禁煙デーをご存じでしょうか？毎年5月31日が世界保健機関（WHO）により禁煙を推進するための記念日として定められています。健康増進法の一部改正により、2020年4月1日から、飲食店、オフィス・事務所などが原則屋内禁煙となりました。これは望まない受動喫煙を防止する目的です。受動喫煙とは、タバコを吸わない人が、他の人のタバコの煙を吸い込んでしまうことを言います。他の人が吸っているタバコの先から出る煙（副流煙）には、喫煙している本人が口から直接吸い込む煙（主流煙）よりも高い濃度の有害物質（ニコチン、一酸化炭素、各種発がん物質等）が含まれています。この受動喫煙により年間約1万5000人が亡くなっています。受動喫煙により子どもの中耳炎、気管支炎、肺の感染症、肺機能の低下などが起こり、家庭内などで受動喫煙をしている子どもは、言語能力が低かったり、注意力が散漫だったりする傾向が報告されています。また、親が喫煙者であると、その子どもはタバコの煙に慣れ、将来喫煙者になる可能性も高くなります。私は呼吸器内科医として、80%を超す非喫煙者が受動喫煙することのない社会を目指しこれからも活動していきます。